

会 議 報 告 書

1 会議名	平成28年度第 1 回北上市子ども・子育て会議		
2 日 時	平成28年 9 月 1 日 (木)	3 場 所	本庁舎 5 階第 3 会議室
	午後 3 時30分から 5 時まで		
4 出席者	<p>【委員】 今西界雄会長、笠井壽枝委員、及川圭子委員、及川美智子委員、徳増全矢委員 (新)、梅津朋子委員 (新)、岸谷貴宏委員 (新)、高橋克史委員 (新)、大塚健樹委員、岸隆子委員、佐藤和美委員、吉田佳美委員 (委員出席12名、欠席 3名)</p> <p>【事務局】 6 名 【傍聴者】 2 名</p>		

会議に先立ち、新たに委嘱した 4 名の委員の紹介及び子ども・子育て会議の目的や職務について説明をした。

1 開 会 (子育て支援課長)

2 あいさつ (教育長、今西会長)

3 報 告 (今西会長進行)

北上市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について (平成27年度末現在)

説明の要旨

北上市子ども・子育て支援事業計画に記載されている67事業の進捗状況について報告

【主な質疑】

◆幼稚園・保育園等での障がい児の受入について、障がいの程度は。保育士不足は生じていないか。

障がい (特別な支援を要する) の程度は様々である。新規入園児童の場合は園での面接後、就園指導会議にて保育士の配置 (加配) を決めている。また、入園後に支援が必要と思われる児童についても、関係機関と協議しながら保育士配置を決めている。確保が難しい場合もあるが何とか対応できている。

◆こども療育センター訪問療育事業の周知方法は。

機会を捉えて周知は図っている。具体的な方法については後日こども療育センターに確認後回答することとした。

子ども療育センター確認事項

ホームページ等で周知を図っている。健康増進課との情報共有等により対象となり得る児童の把握をし、案内もしている。

◆市内 (黒沢尻西小学校付近) に障がい児を預かる施設があると聞いたが詳細は。

奥州市の社会福祉法人が黒沢尻西小学校東側に放課後等デイサービス事業所を開所したもの。

◆事業所内保育所の監査方法及び項目は。

県南広域振興局が対応しており市も立会いしている。ほぼ保育所と同じ項目での監査となる。関連して小規模保育事業所は市の認可であり市が監査を行っている。

4 議事

保育園、認定こども園、小規模保育事業、幼稚園の利用定員について

説明の要旨

新たな小規模保育事業の認可を希望する事業者があったことから、現在の利用定員の状況と、子ども・子育て支援事業計画で定めた平成28年度利用定員の計画、小規模事業所が新規で開設した場合の利用定員について資料により説明し協議した。

(次頁あり)

協議の結果

新規希望事業者及び利用定員について、特に指摘は無かったことから、認可に向けた事務を進めることで了承を得た。

【主な質疑・意見】

◆待機児童を解消するためにどのような方法がとられているのか。

育児休業の延長、認可外保育所や親類へ預けるなどの対応をしている。

◆小規模保育事業所のマニュアル整備、アレルギーや虐待対応等はどうなっているか。

認可申請に当たりマニュアルの提出を求めている。年1回の定期監査においても確認をしている。

◆常盤台テニスコート跡地への黒沢尻幼稚園建替計画、規模及び定員等は。

現在、黒沢尻幼稚園隣の学童保育所を移転新築するため常盤台テニスコート跡地を造成中。その後黒沢尻幼稚園を北側に移転させたいという方向性は決まっているが、時期、規模等体的な部分は検討中である。

5 その他

【情報提供】

(盛岡大学短期大学部短期大学部長 大塚 健樹 様)

・保育の質や人数の問題等の話が出ていたが、厚生労働省の定員に対する縛りがきつく150名だが190名とし、150名に近づけて進めている。盛岡市内の専門学校2校及び高校に対し学生募集をしているが、「保育士は大変だ」という良いイメージがないのか保育士になりたいという学生が少し減っている印象を受ける。

・教育長から台風の話が出たが、岩泉、久慈、宮古に2年生の生徒が教育実習に行っている。心配で安否確認等をし、学生に被害はなく安心している。施設運営面で自然災害等で心配される部分があり、子供の命を守るという観点から、市でも担当施設等に働きかけをしていただきたい。

(専修大学北上福祉教育専門学校保育科長 岸 隆子 様)

・定員50名であるが、昨年度から離職者の学生を受け入れている。昨年度は12名、今年度は13名入学している。保育補助として就職したが資格が必要となった、全く別の職種の仕事を辞め希望していた保育職を学ぼうと思った等理由は様々である。高校を卒業してすぐの学生と30～50代の離職者の学生と一緒に学んでいる。卒業後の離職者学生の就職先を確保できるかどうか未知数である。今年度の卒業生が年齢で敬遠されることなく採用していただけるようお願いしたい。県内では他に一関修紅短大で離職者の受入れをしている。

(北上市学童保育連絡協議会会長 徳増 全矢 様)

・保育専門学校で就職指導を担当している。現在54名の学生が卒業予定。平和会で多くの学生を採用してもらっている。2年程前から県外への就職希望者が増えており、待遇面の違いが大きな理由。地元に残らず待遇の良いところに就職したいという傾向が強くなってきている。学校としては地元に残ってほしいが、学生や親御さんから意見を聞くと、安定して収入が得られる職場希望が多く、現状を伝えていきたいと考えている。正職員の採用希望が多いが、財政事情等でなかなか厳しいのは理解できる。臨時でもいいので地元で頑張ってみてはという指導はしている。

・保育所だけではなく幼稚園、障がい児施設への就職希望者も1～2割程いるので、採用人数を増やしてもらいたいのが、長期間働くことを希望する学生が少ないことが難点である。

・関東と北上市とでは月給でどのくらいの収入の差があるか。東京都23区では初任給20万前後、加えて家賃の補助制度があり、都から月8万2千円の補助が出る。給与だけの違いであれば親御さんと生活すれば変わらないと、地元へ留まるよう勧めていたが、家賃補助があれば28万円の給与となり生活費が賄えてしまうので、学校側でも止めることができなくなっている。船橋市が始めた事業

(次頁あり)

で待機児童が大幅に解消されたことにより、他の市町村でも始めている。今年はさいたま市が本校に宣伝に来ている。北上市の場合、公立保育所の初任給が基準とすれば基本給だけで6万円位の開きはあると思う。

(子育て支援課長)

・市では潜在保育士の掘り起しの事業として昨年度から「保育士復職プログラム」を実施している。昨年度12人の参加者のうち8人が保育現場に復帰している。今年度も同事業を行っており、本日1回目の施設見学を実施し16人の参加があった。うち0歳児の母が9人おり、意欲はあっても子育てとの両立を考えれば直ぐの職場復帰は難しいかもしれない。今後も市として潜在保育士の掘り起しに力を注いでいきたい。